

○4番(南部 豊君) こんにちは、ご苦労さまでございます。

今9月定例会も最後の質問者となりました、南部豊でございます。

6月、9月定例会、連続のトリとなりました。最終日、最終質問者になりますと、重複する部分がたくさん出てまいります。しかしながら明解なる答弁をお願いしたいと思います。

今、東員町の農家さんでは秋の収穫の真っ直中であり、がしかし、梅雨を思わせるような雨の多い天候により、稲の刈り取りや畑作の収穫や草取りに大変ご苦労をされていることと思います。足早に過ぎ去った感のある夏、スカッとした秋晴れを期待したいと思います。

この9月定例会では2項目の質問をお伺いします。

1項目めは町財政について、2項目めは土地有効利用についてであります。

1項目めの町財政問題は、国からのいろいろな交付金や補助金、複雑な税収入、町債など、日頃私たちには聞き慣れないことばかりではございますが、お聞きしていきますので、よろしくお伺いしたいと思います。

今、国の借金は平成26年6月末には1,039兆円を超え、国民1人当たり800万円強の借金となることが日本経済新聞などで報道されておりました。この世界でも類を見ない借金大国、平成26年度の国家予算は一般会計予算、約96兆円、10年分以上に相当する借金であります。そしてその金利負担だけでも恐ろしくなる現状を、今、国、政府は抜本的な手当ができないまま、先延ばしにしている状況でもあります。

そこで町民の皆さまも、我が町の町財政については大変関心を持たれている身近な問題でもありますので、お伺いしたいと思います。

1点目、当町は現在どのような財政状況なのか。

2点目、5年後・10年後の予想はどうか。

3点目、住民が減少し、増加が見込めない中、どのような税収増加を見込むのか。

4点目、近い将来に向け、心配なく安心して過ごせる町なのかをお伺いしたいと思います。

答弁よろしくお伺いします。

○議長(木村 宗朝君) 早川正総務部長。

○総務部長(早川 正君) 南部議員の町財政についてのご質問にお答えをさせていただきます。

まず1点目のご質問でございますが、本町の平成25年度の決算に伴います財政指標では、地方公共団体の財政力を示す財政力指数は0.728、財政構造の弾力性を示す経常収支比率は79.2%となっております。

また、県内での財政状況につきましては、平成24年度の数値で、財政力指数は県内29市町のうち11番目、経常収支比率は県内29市町のうち8番目と、現在はまだ良好な財政状況であると言えます。

次に2点目のご質問でございますが、平成26年度からはイオン東員の開店に伴う税収入を見込んでおりますが、今後、確実に生産年齢人口が減少していくと推定をしており、町税の個人住民税は、平成25年度を起点として毎年1%ずつ減少すると試算をいたしますと、5年後の平成31年度には9,000万円程度は減収する計算となります。また一方で、医療費等社会保障にかかる費用が増加することが予想され、10年後はさらに厳しい財政状況になるものと考えております。

次に3点目のご質問でございますが、国立社会保障・人口問題研究所より、平成25年3月に公表されました本町の将来推計人口では、平成22年国勢調査人口と比較して、26年後の平成52年には約5,500人減少するとされており、長期的には生産年齢人口が減少していく中、町税の個人住民税の減収により税収の増加を見込むことは難しいものと考えております。

次に4点目のご質問でございますが、急激に変化していく社会情勢の中で、20年後の本町の財政状況を予測することは難しいものと考えておりますが、今後一層、財政状況が厳しさを増す中で、町民の皆さまに心配なく、安心して生活していただけるよう、町といたしましては補助費、物件費などの経常的な歳出の徹底的な見直しを進め、身の丈に合った標準的な歳出規模を維持し、財政の健全運営に努めてまいりたいと考えております。

また、町民の皆さまに現在の東員町の財政状況等を知っていただくためにも、本年も「まちしると一いん」という冊子を作らせていただきまして、配付をさせていただいたところでございます。

以上、よろしくご理解を賜りますようお願いをいたします。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) ありがとうございます。

今、部長から答弁をいただきました。いろいろなお答えをいただいた中、財政力指数も県内8位というようなことでございました。少し安心したところでもありますが、気になっているところもありますので、お伺いします。

先般お伺いしていただいた資料、一般会計年度別集計表によりますと、個人町民税が平成20年度以降減少傾向にあります。これは何が原因でしょうか、お伺いします。

○議長(木村 宗朝君) 早川総務部長。

○総務部長(早川 正君) お答えをさせていただきます。

住民税につきましては、平成20年度と平成25年度を比較をしますと、2億2,000万円ほどの減収となっております。特に際立った年度といたしましては平成22年度でありまして、前年比、2億1,800万円ほどの減少となっております。これらの要因につきましては、ご承知のとおり、いわゆるリーマンショックの影響によりまして個人の所得が減少したことによるものと考えております。

またほかには、いわゆる団塊の世代が退職期を迎えたことにより、個人の所得が年々減少しているものと考えております。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) 個人の所得の減ということで考えてよろしいでしょうか。

法人町民税が平成25年度は4億9,000万円と突出しております。3億円ほどの増収になっていますが、なぜでしょうか。

○議長(木村 宗朝君) 早川総務部長。

○総務部長(早川 正君) お答えをさせていただきます。

法人町民税につきましては、今、議員申されましたように、平成25年度は4億9,700万円ほどとなっております。昨年度と比較をいたしますと、約3億500万円ほどの増加となっております。これは名前を申し上げますと、町内の東洋ゴム工業さままでございますけれども、大変業績がよくて、大きな額の納付をいただいたということが大きな原因でございます。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) ありがとうございます。

町の借金と思われる町債の状況は、このままで心配ないと考えてよろしいですか。臨時財政対策債などで手当はされていると思いますが、お伺いしたいと思います。

○議長(木村 宗朝君) 早川総務部長。

○総務部長(早川 正君) 地方債につきましては、現在東員町のほうの起債残高、約56億円ほどとなっております。そのうちの約74%に当たります41%ほどが、議員先ほど申された臨時財政対策債でございます。この臨時財政対策債につきましては、借り入れの元利償還額を国が地方交付税で財政支援をしていただける制度となっております。したがって、いわゆる借金でございますけれども、東員町の抱えておる地方債の多くは約75%ほどが交付税で国のほうで見えていただけるということになっておりますので、決して悪い状況であるというふうには考えておりません。

また普通債につきましては、後年度負担等を考慮しながら、できる限り借り入れをしないような財政運営を行っております。

以上でございます。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) 今の借金とされている町債というのは、このまま心配しなくてもいいと。75%は国のほうで手当をしてもらえるとということで考えてよろしいでしょうか、はい。

昨日もご答弁をいただいておりますが、イオンさんの税収入、平成26年度、来年になるとと思いますが、固定資産税や法人税で1億1,450万円を見込んでいますと、昨日答弁がございました。私はここに上下水道利用料金もプラスされ、増収額がプラスになると思っております。

続きまして3点目について、町長にお伺いします。

昨日の同僚議員の質問にありましたが、人口減について、平成40年、約15年後には15歳から64歳までの実働生産年齢の方たちが1,900人の減少、そして65歳以上の方

たちが2,000人の増加と言われてますが、町長は本当にそのようになるとお思いでしょうか。どのようにお考えになっているのか、お伺いしたいと思います。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) これはあくまでも推計でございまして、政策、打つ手によっては変わってくるものと思っております。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) これは町長もよくご存じの四日市大学副学長、岩崎先生の推計データでございますが、町長は将来のことを考え、財源を見込むとすれば、どこに税収を求めるのでしょうか。どのようにお考えか、お伺いしたいと思います。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) 税収が減ってくるのは確実に減ってくるだろうと、これはもう予測をしております。それを今のような、あるいは今まで以上に増やす方法というのはなかなか難しいのではないかと。

その中でできるだけ減らさない方法、これはやはり町内で物・金が動く仕組みというものが必要なのではないかなというふうなことを思っております。そういうまちづくりというのが、今後大変必要なことではないかと思っております。そのためには我々行政だけで社会づくり、あるいは地域づくりをしていくのではなくて、町民の皆さまが自分たちの身の丈に合った、そして自分たちの需要に応じたようなそんな社会づくり、地域づくりをしていく必要があるというふうに考えております。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) ありがとうございます。

今、でもしかし町長の答弁を聞いてますと、このままいってしまうと当然減収になる。そうした場合、何か原資を考えることをしなくてはいけないと思えますね。

以前、企業誘致とか、いろんなことを言われてましたが、そういった方面のお考えはありませんでしょうか。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) 本町は非常に面積も小さくて、今、工場に適した土地というものも残り少なくなってきました。また、今の日本の現状を考えたときに、工場誘致を一生懸命やって、すぐに入ってくるという状況ではないというふうに思っております。それよりも本当に自分たちが身の丈に合った社会づくりをしていくということと、昨日も答弁をさせていただきましたように、若い人が入ってきていただけるような、そんな魅力ある東員町づくりというものが必要なのではないかなと。それによって人口減少を緩やかなものにするのと同時に、生産年齢人口を確保していくということが大切なのではないかと。そういうことで、再三出ております子育てしやすいまちづくりとか、子どもに優しいまちづくりとか、そういうことをしていく必要があるのではないかなというふうに思っております。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) ありがとうございます。

今の点はまた後から、土地利用のところでも私、お聞きしていこうと思っておりますので、今お答えをいただきましたので、その点についても機会があるごとにお聞きしていきたいと思えます。

子育て支援、高齢者福祉支援、障がい者福祉支援、学校教育支援、ごみ問題、東員町はいろいろな問題を抱えております。当然ですが、全てにおいてお金がかかるわけがございます。財源が当然ながら必要になってきます。この点については、今すぐ心配はないにしろ、将来に向けては職員の皆さまも危惧されているところではないでしょうか。

続きまして、4点目に移らせていただきます。

4点目は町民のほとんどの皆さんの思いは、安全・安心なまちとして心配なく過ごせるまちなのかということかと思えます。先ほど部長にも財政的なことの答弁をいただいておりますが、現町長として、近い将来に向け、心配なく安心して過ごせる満足度を実感できるまちなのかどうか、もう一度お聞きしたいと思えます。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) それはこれから我々がそういうまちにしていかなければならない。今、財政状況がいいからといって10年後にいいとは限らないというふうに思っておりますし、現に人口が減ってくれば当然減収になります。財政的な非常に厳しい状況も待ち受けているんだらうなというふうに思っております。

そのためには、今、この町で、町民の皆さんがみんなで自分たちの生活に必要な物、それを自分たちの手で、当然需要が多様化してきますので、それを満足するためにも自分たちで考えていただくというのが基本的にあると思っております。災害の時もそうですが、全てが行政がすぐに駆けつけるということではできなくなっておりますし、いざ何か災害が起こった時に行政がすぐに駆けつけるということは全く不可能ですので、自分たちで、まず自分たちの命を守ってもらうということが第一ですけれども、まちづくりも同じように、自分たちの需要に即した、そんな地域づくりをしていただく。それによって皆さんで、みんなの財源ですから、それを守っていただいて、将来にこの東員町で生まれた、この東員町に入ってきていただく、そういう若い人、あるいはその子どもさん、孫さんに、この東員町を渡していくというのが我々の義務であるというふうに思っております。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) ありがとうございます。

私も今、町長がおっしゃったことは同感でございますが、ただ、私たちも町民として行政に全ておんぶに抱っこというわけにはいかないことは重々承知もしております。ただ、町長としてはその中でリーダーシップをとっていただいて、ますますの推進をお願いしたいと思うわけでございます。

東員町は近隣市町にない大きな財産を持っています。皆さんも十分にわかっていて、普段余り気にされていないこと、それは何か。東員町は災害の少ない安全なまちという大き

な財産であります。災害ゼロではないにしろ、安全なまちとして、今、近隣市町の不動産関係者や建設業者さんの関心は大きく持たれているまちでもあります。これをPRに使わない手はないと思います。

乱開発を望んでいるわけではありません。秩序あるミニ開発等を推進され、今、町長が言われた若い方たちに東員町にお住みいただき、要は選択肢を増やしていただきたいという思いであります。

そこで2点目の土地有効利用についてであります。

各地方自治体においては土地の有効利用をするため、また若い人たちの転入確保のための政策やアイデアを考え、日々努力されていますが、東員町ではどのようなことを考えて実施していくのか、昨日の同僚議員の質問と重複しますが、お聞きします。

1点目が、町長が課題としているネオポリス地区内の空き地・空き家について、2点目は笹尾1丁目、笹尾保育園跡地について、これも昨日答弁がございました。3点目は、何をするにも当該地域の地権者や住民の理解が必要不可欠でございます。円滑に進めるため、どのようなことが必要と考えているのか。

以上をお伺いしたいと思います。

○議長(木村 宗朝君) 早川総務部長。

○総務部長(早川 正君) 土地有効利用についてのご質問にお答えをさせていただきます。昨日の答弁と一部ダブるところがございますけども、ご了承ください。

1点目のネオポリス地区の空き地・空き家についてのご質問でございますが、総務省が実施しました平成25年度住宅・土地統計調査の速報値では、全国の空き家率は12.8%、三重県におきましては14.8%と、過去最高の値となっております。

本年4月に改めて確認いたしました笹尾・城山地区の空き家は現在4,330戸中68戸で、空き家率は約1.6%と、国・県の値と比較すると、決して高い数値ではないと認識をいたしております。ちなみに空き地については310人の所有者を確認をしております。

町といたしましても、空き家・空き地対策として、平成20年度に空き家・空き地情報バンク制度を創設し、物件を貸したい、売りたいという所有者と物件を借りたい、買いたいという物件利用希望者の双方の橋渡しを行ってまいりました。しかし、その申し込みは創設から現在まで17件と、利用される方は大変少数となっておりますので、改めて「空き家・空き地情報バンク」の利用促進を図ってまいりたいと考えております。

2点目の笹尾保育園跡地についてのご質問でございますが、近藤敏彦議員からも同様の質問をいただいております。町長が答弁いたしましたとおり、旧笹尾第一保育園跡地につきましても、条件つきで民間へ売却する方向で考えており、環境に配慮した、また、若い人をターゲットにした住宅の建設、販売をしていただくことにより、この地域に若者が定住してもらうことを期待しております。

3点目の施策を円滑に進める方法のご質問でございますが、土地利用に関する関係諸法を順守しつつ、必要な行政情報を皆さんと共有をし、地権者や地域のご理解を得ながら進めることが最も重要であると考えておりますし、必要不可欠と考えております。

ご理解賜りますようお願いをいたします。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) ありがとうございます。

以前からこの空き地・空き家については、私をはじめ、たくさんの同僚議員からの質問があったと思います。アンケートや地主さんの意向調査などをしてみえますが、昨日の答弁でははっきりしないお答えでございました。

今、数値を言われましたが、どのような件数になったのか、もう一度お願いしたいと思います。空き家が何件、空き地が何件で結構でございます。

○議長(木村 宗朝君) 山下建設部長。

○建設部長(山下 誠司君) お答えさせていただきます。

以前、空き地が400件、空き家が150件というふうにお伝えさせていただいたと思いますが、私どもでつかんだ実数といたしまして、空き家が68件、空き地につきましては310人の方が、一部、複数お持ちの方がございますので、310人ということでご理解いただきたいと思います。

以上です。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) 今はっきりとした件数をちょうだいしましたので、なぜか話をお聞きしますと、余りはっきり答えが返ってこない。なかなか難しい問題であるということは十分理解しているつもりでございます。

こういったものの原因というか、理由といいますか、根幹まで突き詰めて考えられないと、いつお聞きしても不確定な答弁が返ってくるわけでございます。アンケートを出されるにしても、68%の方が昨日何かアンケートはいただいている、その中のまた数パーセント、追跡調査もされてないわけですね。全数できれば一番いいわけですが、そういったアンケート調査なんかも、きっちり最後まで何回かやらなくては、根幹を理由としてつかむことはできないと思いますので、そういったことについて、私はやらなければならないというふうに思っておりますが、それについてはどのようにお考えでしょうか。

○議長(木村 宗朝君) 山下建設部長。

○建設部長(山下 誠司君) アンケートの目的といいますか、これにつきましては、どういうふうなお考えであるかというのを把握する意味でやっております。何が大事かということは、全ての空き家・空き地の所有者に対しまして、空き家・空き地バンクがございますので、そこへエントリーをしていただいて活性化を促すということが大事なことでございますので、アンケートの回収率、先ほど4割弱というふうなことも申し上げてきておるんですけども、回収率も低いということがありますけども、回収率に限らず、私どもで把握して

おる物件全てに対してバンクに登録していただくよう、今後お願いをしていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) 部長は空き地・空き家バンクのことをおっしゃっておみえになりましたが、昨日私もちょっとそれをのぞいてみましたが、今現在、何件の登録がございますか。

○議長(木村 宗朝君) 山下建設部長。

○建設部長(山下 誠司君) 先ほど申し上げておりますけども、17件というふうに把握しております。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) 私の見るページが少し違ったかもしれませんが、昨日記載されていたのが4件です。それで結構ですが、こういったことも一つの方法だとは思いますが、過疎化で実際お悩みの町行政の皆さんは、いろいろなアイデアを、我々が驚くようなアイデアを考え、企画し、行動に移し、人口確保に努めておみえになります。当町として具体的に何か行動されたことがありますでしょうか。

そして今申し上げた空き家バンク情報、昨日私も帰って見ましたが、非常に使い勝手が悪いように思います。これを感じたのは私だけでしょうか。部長、使われたことがありますか。お伺いしたいと思います。

○議長(木村 宗朝君) 山下建設部長。

○建設部長(山下 誠司君) すみません、先ほど17件と申しましたのは、これまでの累積でございます、現在エントリーされているのは4件ということで、訂正をさせていただきます。

ちょっとおっしゃっていること、私、理解できなかったものであれなんですけども、使われるというのは、このバンク制度を利用したかどうかということでよろしいのでしょうか。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) 今回の質問は、他行政ではいろいろなことをやっておみえになりますが、具体的に何か行動されたことがありますか、これが1点。

それと今の空き家バンク、私、昨日、情報として非常に興味があったものですから、私自身がそこを見たかったわけですけども、なかなか見れないんですね。その4件の方の情報というのは、どうやって見たらいいのでしょうか。

2点、お答えください。

○議長(木村 宗朝君) 早川総務部長。

○総務部長(早川 正君) これまで人口増加対策につきましては、員弁郡の定住自立圏のほうで一緒になって行っている部分もございますけれども、本町といたしまして子育てしやすいまちという部分で、例えば中学生までの医療費の無料化であるとか、5歳児



の幼稚園保育料の無償化、そういったものを積極的に導入をさせていただいて、子育てしやすいまちというところで若者の転入を促すような施策をとってございます。

それと市街化区域に付随する部分の区域で、神田地区とか稲部地区のほうで、今ミニ開発が起こっておりますけれども、そういった部分がミニ開発が可能なような取り組みをさせていただいてございます。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) そうですね、今、神田の保育園の西側でも少しミニ開発がされてますね。あれは私お聞きしたところ、何か5件の家が建つそうです。こういったミニ開発をするということは、私大賛成派でございまして、以前から申し上げているわけですが、それはそれとして2点目に入らせていただきたいと思います。

笹尾西1丁目の笹尾保育園跡地についてでございますが、私は以前から、使われないのであれば備品備蓄倉庫として防災倉庫の分散化を、以前も提案させていただいたことがあります。しかしながら昨日の答弁において、条件つきで売却をするということを言われましたので、ただこれで町長の答弁の中にも、ダイワハウスさんとの話を進めているということでした。これはもう間違いないですね。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) 以前ダイワハウスと、その跡地も含めて笹尾・城山地区の空き地・空き家、そういうものも含めて若者がそこへ入ってきていただくような方策というものを協議をさせていただいておったということで、今、ダイワハウスと空き地について協議しているということではございません。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) ダイワハウスさんは素晴らしい会社ではございますが、ああいったところは1社だけじゃなくて、いろいろな会社にひとつ参加していただいて、そういった素晴らしい提案をしていただくのも一つの方法だと私は考えておりますが、町長、早急にそういった方向に行きたい、売却するというようなことでしたが、いつのころとお考えですか。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) 方向としては、今のように公募をかけて、いい提案をいただいたところと契約を締結できればなというふうなことを思っておりますが、こちらの条件設定をして、それから公募をかけていきたい。できるだけ早いうちにやりたいなというふうなことを思っております。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) 昨日も伊藤守一議員が、その点で期限のことを多分聞かれてみえたと思いますが、私もいつごろという話ではなくて、何月ごろにやられるのか、ちょっとお聞きしたかったわけですが、その点についてはどうでしょうか。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) 今具体的に持ち合わせておりませんが、できるだけ早くということでご理解いただきたいと思います。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) 今年になるか、来年になるか、いつになるかわからないというような解釈でよかったですでしょうか。まあそれはそれとして3点目に入ります。

昨日、町長は土地利用の中で、やっ和三和地区の開発を求めていく旨の言葉を私は初めて耳にしたような気がします。役場付近から東員駅、そして中部公園付近の2ヘクタールの開発も県へ求めていくという答弁もございました。ぜひこういったものに関しては前向きに前進していただいて、若い人たちの住宅購入の選択肢の幅を広げていただきたいと思います。

しかし、せっかく東員町が将来こうあるべきだ、こうなくちゃいけないという思いでこの地区を開発しようとしたときに、こういったことを全ての方たちが望んでいるかどうかわかりません。そういった開発をしようとしている地域に望んでいない方がみえた場合、問題が発生します。どうしますか。どうされますか。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) 当然ご理解をいただけるところでの開発ということになっておりますが、三和地区の開発ということを私、昨日お話をさせていただきましたけれども、議員がいつもおっしゃっているような開発というふうな意味で申し上げたとは思っておりませんので、申しわけないですが。優良農地として守るべきところはきちっと守りながら、そういうものを進めていくということでございますので、ご理解をいただきたいというふうに思います。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) 少し違っているのかなという思いもありますが、あくまでも町長は優良農地は優良農地として守る、東員インター付近は優良農地、あそこの開発は考えておみえじゃないということでしょうか。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) あのあたりは優良農地と認識しておりますが、乱開発などが懸念される部分もございます。その部分に関しては少し考えていかなければならないというふうに考えております。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) 当然乱開発については、行政としてチェックしていただかなくてはなりませんが、私は東海環状東員インターができる、このようなすばらしい状況の中で、なぜあそこのあの地点を優良農地として守られるのか、私は全くわかりません。優良農地は優良農地として守る。これはもうわかります。私もお百姓でございますので、それは十分わかってはおりますが、インターとしての位置づけ、意味合いを考えると、そこを農地として守る必要があるのかどうか、これは私は疑問に思うところでございます。

町長が言われた三和地区の開発というのは、私が思っている地区とは相当違う、開発とは違うと今おっしゃっておみえになりましたが、将来の夢をこんなところで語るとおかしくなるかもしれませんが、やはり東員町の将来は三和地区の、また長深地区の丘陵地、ここを将来に向けて、言ってしまうと、私の思いですよ、あそこの開発にかかっている。

ただ、それもブロック別に分けて5年ぐらいのスパンを持ちながら、言うならば4ブロックに分けて20年をかけてやるというような形にすれば、一過性のある高齢化問題なんかも緩やかなものになるんじゃないかというような私は思いもございました。これは実現するかどうかわかりませんが、将来の夢として私は少しそんなふうになったらいいなという思いとして持っておりました。

これは別として本題に入りますが、こういった開発に関しても、いろいろな考え方をお持ちの方もおみえになるかもしれませんので、私は6月議会でも申しましたが、事前に各地区において行政と地区住民の方たちの意見交換や意向調査をすることにより、少なくとも問題の解決につなげることができるのではないかという思いがございます。

やはり地区にはいろいろな問題がありますので、何をやられるにしても、政策の中では事前に情報収集することが大切なことかと私は考えておりますので、先の質問で部長に、6月議会で、地区でそういうことがあれば利用させていただきますというようなことを答弁されています。覚えておみえでしょうか。

私はこういったことは今、今ですよ、今やろうと思ったら、やはり行政主導でやらないとできない問題だと考えています。ゆくゆくは当然住民主導でやっていかななくてはならない問題であろうかとは思いますが、まずは今のこの時点においては、いろいろな問題において、行政主導でその地区ごとに、各字に2人や3人の方が一生懸命これをやろうあれをやろうと声を上げていたとしても、それはまとまることではありませんから、特に行政から、今後地区の問題について、行政が出かけて行って、そういった問題に対して意見を求めるような、そういったようなことをやられたらどうかな。要は先に情報を持っていただくということを私は考えていますが、その点についてはいかがでしょうか。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) まちづくりにつきまして、今、政策課で、昨日も答弁をさせていただきましたが、地域へ出向いて行って地域のいろんな意見を聞く、そして意見交換をして、その地域に合ったまちづくりをどうしたらできるかということを考えていこうということの緒につき出したばかりでございますので、今その方向で進めていき出したというふうにご理解をいただきたいと思っております。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) 今、町長からそういった出向いていくといったようなことを今からやられるという答弁をいただきましたが、本当にこういったものは必ず何とか形にして、ぜひやっていただきたいと思っております。

やはりこういうことをやらないと、どんな政策、どんなよい政策を例えば行政が執行しようとしたとしても、必ず全ての方が賛成されるわけじゃないですよ。やっぱり反対も出てきますので、そういった方たちの地ならし、そういったものをしていかないと何も進まないと思いますので、ぜひ何とか形として立ち上げていただけるようお願いしたいと思います。

最後になりますけども、首長たるもの当然ながら先を見通したよい政策を、東員町の根幹にかかわる政策は、ぶれることなく次世代へ継承し、つなげていかなければならない責務があると私は思います。

昨日、来期に向けて町長選出馬も町長は表明されました。今日の中日新聞、伊勢新聞、相当大きなスペースをとって発表されておりました。残念ながら朝日、毎日、読売ですか、これには掲載されておりませんが、地元の中日新聞にも掲載されておりました。

今、東員町としてチャンスの時と私は考えております。しかしながらこの時の一歩の遅れは将来の10歩にも20歩にも相当する、そういったものにつながりかねないと思います。しっかりとした町政運営を、町長をはじめ職員の皆さまの、町民の期待に恥じない安全・安心なまちづくりを期待しまして、9月定例会の私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。